



新潟にもトレイルOの芽が根付き始めました

新潟県協会
藤島由宇

‘06 トレイルO長岡大会 2006年10月22日(日)

10月に入り朝晩と冷え込む日が続いた新潟。ところがこの日だけは、残暑の終わりを思わせるほどに気温が上がったのです。

優勝するのは誰？

今大会は国内実力No.1の杉本光正さんがコントローラとなりましたため、事前申込のメールが届くにつれ、「どなたが優勝するだろう...？」と大会当日が待ち遠しくなっていました。

その事前申込は計14名。日本代表2名を含むランキング上位者が多数を占め、まさに少数精鋭の皆さんによる激戦が予想されました。

今大会は15点満点(うちタイム・コントロールが1カ所)の制限時間100分(車イスの選手は120分)で競技が行われました。タイム・コントロール(TC)はスタート直後に行われたため、その正解不正解が気になってその後の競技に影響が出た選手もいらっしゃったかもしれません。また「あまり冗長に考える事を防ぐ」という方向性を持たせたため、1コントロールあたりにかける時間も約7分と、これまでの大会に比べてよりスピーディーな判断が求められました。

Aクラス優勝は日下雅広選手(東北大)

大会の会場となった国営越後丘陵公園の和やかな雰囲気の中で、トレイルO独特の静かなる熱い戦いが繰り広げられました。

Aクラスの優勝は見事15点満点を獲得した東北大の日下(ひした)雅広選手。9月のインカレロング併設大会(駒ヶ根)でも学生の部で1位、総合7位位の成績を収めており、また新たな若手有力選手の登場とあいなりました。

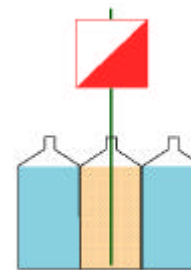
今年度の日本代表であった鈴木規弘選手は通常コントロールで1カ所の不正解と痛恨のタイムオーバーにより計2点のマイナスで2位。3位には今年から積極的に大会に参加されている埼玉の木村治雄選手が入賞しました。なお各クラス上位3名には新潟県産新米コシヒカリが贈呈されました。

Aクラス上位5名(14ctrl+1TC)		
1 日下雅広	東北大	15点 31秒
2 鈴木規弘	多摩OL	13点 13秒
3 木村治雄	群馬大	13点 73秒
4 降旗 健	杏友会	13点 76秒
5 吉村年史	京葉 OLC	13点 77秒
パラリンピック Aクラス		
1 木島英登	豊中市	10点 113秒
Bクラス(9ctrl)		
1 山口敏夫	富山 OLK	7点
パラリンピック Bクラス		
1 山崎一郎	新潟市 OLC	4点
Nクラス(6ctrl)		
1 星野六郎	長岡市	4点
パラリンピック Nクラス		
1 星野六郎	長岡市	4点

230m! 遠いコントロール

今大会の目玉の1つが、丘陵公園ならではの「遠いコントロール」でした。今回はデジジョン・ポイントから約230m先、高低差約40mの地点にコントロールが設置されました。フラッグ数は3個で、「目立つ木とやぶを見分ける」という課題がコースプランナの山口拓也くん(北海道大学)により設定されました。

またこの他にも、ジェネシスマッピング山川克則氏により表現されたハイクオリティマップを余す事無く利用し、これまでに見られなかったコントロールが各所に設置されました。(上図:13番「南東の目立つ木、北東側」) 上図:2番「小道と小道の分岐」。薄い水色は通過できる池を表しており、この中にある小道(飛び石状)を利用したコントロール。設置には1.5リットルのペットボトルを3個用意し、これらをガムテープでまとめ



たものを使用(イラスト参照)真ん中には砂を入れ、ここに棒を立てました。両端の2個には水を入れ、重しとしました。

新潟にもトレイルOの芽つ

今年3月末の助成金の内定の知らせを受け、急遽実施となったトレイル・オリエンテーリング普及事業。その中にはもう一つ、「新潟県協会の掘り起こし」という狙いもありました。

この半年間の事業を通じ、何度も県協会の皆さんにお会いし準備を重ね、2度の体験会と講習会、つどい、大会を1回ずつの計5イベントを実施して参りました。協力をいただきました県協会の皆さんと、トレイルO研究会の田中博さん、櫻内保幹さん、杉本光正さん、児玉拓さん、山口拓也君には改めて感謝を申し上げます。

これからもこの国営越後丘陵公園を本拠地として、「仲間を増やそう」という意思を常に持ち、障害者への普及を進めて参ります。

地図の問い合わせは090-4618-0177
showyoh@ginzado.ne.jp 藤島まで

(藤島由宇)